

京都部落問題 研究資料センター通信

第12号

発行日 2008年7月25日 (年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

報告 部落史出張講座

地元で学ぶ地元の歴史

封建制の地固めとなる天部村
信長・秀吉・家康にみこまれて

講師 辻三子子さん
(元京都文化短期大学教授)

六月一日に、当センター主催の「部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史」を京都市三条コミュニティセンターで開催しました。この出張講座は、地域の歴史を地元の人たちと一緒に学ぶ事を目的として企画したものです。当日は、地元の方々をはじめ小・中学校の先生方、学生など七〇名を越える方々の参加がありました。

まず、今回の講座の協力団体である部落解放同盟東三条支部の安田茂樹さんから「私は一六歳の頃から部落解放運動の取り組みを始めたのですが、その当時に地域のおっちゃんから聞かされていたのは、三条はよその部落とはちよつと違うんやで、という自慢話でした。しかし、きつちりした村の歴史を学ぶことは出来てきませんで

した。天部の歴史を学べば京都の部落の歴史がわかるというほど史料がたくさんあるのですが、町内の多くの人たちはきちんと歴史を伝えられてきませんでした。今日は皆さんと一緒に勉強させていたきたい。」との挨拶があり、引き続き、辻三子さんが「封建制の地固めとなる天部村」と題して講演を行いました。

講演の要旨は以下の通りです。

* * *

天部村はもと「四条あまべ」と呼ばれて、四条通と綾小路通を結ぶ「図子」(小さな道)の地域に在し、織田信長と豊臣秀吉から「禁制」(守護をうける制札)が下される、社会的に重視される集団であった。「あまべ」は室町時代から禁裏御所の掃除に従う「小法師役」を勤め、それを誇りにしていた。

ところが、天正十五年(一五八七)三条大橋東南の四方掘切の地域に

替地になって、江戸時代を迎えることとなる。

江戸時代の天部村は、幕府の政策のもとに、きりしたん禁制による宗門改めが行われ、宗旨請状がきちつと提出され、民衆支配の基本になる、ごく初期は十人組、のちには五人組の制度のもとに、天部村では十人組も五人組もつくられていた。

しかし、天部村は江戸幕府の支配下で「役人村」への道を歩むことになる。徳川幕府の全国統一支配が進んでくると、京都には所司代が、つづいて京都町奉行もおかれるようになって、ひろく「かわた」(皮田)身分の人びとを掌握する必要から、下村彦惣に石高百九石余の知行を与え、二条城掃除役の肩書で皮田村とその職掌を統率する役目にあたらせた。

ところが、宝永五年(一七〇八)三代目下村文六の死亡をきっかけに、跡目相続を許可せず、「役替」として天部村・六条村に牢屋敷外番役を勤めさせ、その統率下でひろく皮田村に外番役を勤めさせることにした。

また、京都町奉行の下で四座雑色が籠奉行を勤めると、「あまべ」時代からの経緯があつて、天部村

が四座雑色の配下で刑吏役を勤め、天部村は幕府の支配組織の上でも、各地の皮田村を支配する上でも、「役人村」としての立場を確立していくことになった。

さて、天部村の人びとの日常的な仕事はどうであったか。まず、刑吏役を担う村であったは、年寄のもとで捕吏とか手下にあたる人たちが、捕縛や処刑の役目を負い、又次郎役の者は斬首の役目を負った。又次郎役は腕がたしかで、肝っ魂の太い人物でないと勤まらない役である。

家業は、米屋、八百屋など生活必需品を売る店をはじめ、いろいろな商売や手工業にたずさわる人、日雇に出る人がいたが、特徴的なものには斃牛馬の処理がある。死んだ牛馬の皮を剥いで鞣す仕事で、古い歴史とともに、相当な技術を培ってきた仕事である。そして、皮を鞣して革となった商品は手広く販売されていたのである。

また、その過程で製造される膠は、手工業品の製作のなかでの不可欠な接着剤で、特産品としてよく売れた。さらに、牛馬の革は太鼓の革として、太鼓作りに欠かせないものであったから、太鼓作り、太鼓の革の張替えは村の大きな仕事

事であり、自信と誇りをもって仕上げていた。

たとえば、太鼓屋橋村理兵衛は宝永三年（一七〇六）に鞍馬の下在地の太鼓仲間から、直径二尺三寸の太鼓の張替えを依頼され、五年から七年の間に革が破れたら、無料で張替えるという請合状を出しているようにである。だが、幕末になると小刀で切ったり、石で破ったりしたものは請合わないと書いている。だんだん世の中が世知辛くなったというわけか。

（運営委員 辻ミチ子）

近現代の東三條

教育史を中心に

講師 中西宏次さん

（京都精華大学・立命館大学非常勤講師）

「部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史」二回目の講演会は、前回と同じく三条コミュニティセンターで六月二十七日に開催された。中西宏次さんが「近現代の東三條 教育史を中心に」と題して

話をされ、七〇名近い参加者がありました。

講演の要旨は以下の通りです。

* * *

一八七一年（明治四）の解放令は、江戸時代の役人村としての天部村の特権を剥奪し、主たる産業であった皮の仕事も衰退していく。このような経済的貧困は、教育面では就学率の低さとして現れた。一八七二年（明治五）の学制に先立って、一八六九年（明治二）、京都市内では番組小学校が設置された。天部村は解放令発布の一八七一年（明治四）に、下京二四番組と二五番組に

村が二分される形で組み入れられた。これは天部村内の南北の地域差とそれに伴う上下構造によるものであった。

不就学児童の多さを憂慮した地域の有力者、竹中庄右衛門は「協同夜学校」という夜間の小学校を開設するが、三度も経営に失敗し四度目の一九〇四年（明治三七）にやっと成功する。失敗の原因は天部村全体の取り組みになつていなかったこと、場所も地域の南部で、竹中も南の住民で、北の住民は冷やかな態度であったからと思われる。最終的に学校は大将軍神社

の境内に建設される。ここは天部の全員が集まることのできる場所であった。ここに至って協同夜学校は地域の学校としての機能をもつようになった。即ち他の番組小学校がもっている地域をまとめるセンターとしての役割をもつようになった。一八七一年（明治四）に二分された天部全体の共同体を復活させたといえよう。

一方、隣接する寺裏地域でも夜学会が一八九二年（明治二五）頃から開設されていたが、何度かの中断があり、明治末にやっと軌道に乗った。この学校は「酬恩夜学校」と名付けられた。

敗戦後も貧窮にあえぐ地域では、長欠不就学の実態があった。また部落を校区に含む学校を避け、部落外の学校に越境入学をする生徒のいる有済小学校区では、保護者たちが、校区にひきもどす運動を行った。

長欠不就学対策から戦後の同和教育運動は始まったが、登校してきた子ども達が勉学に集中できる状態ではなかった。地元の学校では一九五九年（昭和三四）から翌年にかけて、教育条件の整備要求である「同和教育白書運動」が取り組まれ、六名の教員加配が実現し

た。

一九八〇年代に入ると京都市中心部では人口減少で少子化が進み、その結果小学校の統合が行われた。東三条地区の粟田、有濟両小学校は二〇〇四年に白川小学校となった。隣接の小学校も児童数が減っているのに二校のみの統合となったのは、両校が同和校であったことと無縁ではない。しかし視点を変えると、一八七一年（明治四）時点での旧天部を二つの校区に分けた不自然な施策が、一三三三ぶりに是正されたともいえよう。

明治期には小学校の学区界は行政区界とも重なり、大きな意味を持つていた。東三条地区では部落界とも重なっていた。一九四一年（昭和一六）の国民学校令で学区が廃止され、境界のもつ意味は軽減された。また近年、同和対策事業の廃止などにより「同和地区」の境界線も法的根拠をもつ境界線という意味を失った。かつての学区界に付与されてきた何重もの意味、とりわけ差別にかかわるものは次第に薄らいできた。しかしそれは、関係する多くの人々の営みによって勝ち取られてきたことを肝に銘ずべきだろう。

（運営委員 湯浅孝子）

支配されてなお横溢する性の可能性

今西一著『遊女の社会史』を読んで

戸籍のない子にパスポートを！ LEMON+C代表

栄井 香代子

著者の今西一氏は一九四八年生まれの団塊世代。あとがきでは「祇園町といわゆる『同和地区』との間に挟まれて育った」とある。本書は「特に『前近代』と言われる伝統社会と、近代の売春の歴史を検討することによって、現代日本の性文化の問題を照射していきたい」という意図のもと執筆されている。著者の問題意識に寄り添いながら、私自身の問題として日本の性文化を考察してみたい。

戦前の軍隊慰安婦はもとより、戦後においても、企業や団体の慰安旅行と称して、東南アジア・朝鮮半島に大挙して買春ツアーを組んできた日本人男性。そして現在もなお、世界屈指の「セックス産業」及び「人身売買大国」日本はその分野の厚顔無恥と醜悪な行為において世界でも「卓越」している。もちろん、それらの行為は、

批判され、規制され、犯罪については処罰されなければならない。しかしそのような実態の原因を探り、男女のありようや、意識を根本的に変革しようとするならば私たちは何者であるかを知る必要がある。そのためには、現在に至る歴史をわがものとする努力が必要となる。

男性から女性への支配の過程として歴史を見た場合、日本は長く「後進国」であったことが、様々な文献からうかがうことができる。その「後進性」は支配の緩慢さであり性的営みの肯定であり、「男女平等」という今日的視点から見るところの「先進性」である。西欧キリスト教に見られるような処女性重視や、基本的にセックスや、ひいては肉体そのものを蔑視する視点は、元来日本にはない。神話としての国生みからして、イ

ザナギ、イザナミの共同作業とされてきたのであり、その時点での産むという力への畏怖とともに、アマテラスの引きこもりが世界を暗黒にしたように、女性の力への尊敬もそこにはあったはずなのである。それは、「初めにアダム（人間＝男）だけがいて、後にアダムが彼の肋骨からイブ（女＝woman）をつくった。しかも食べてはいけない実をイブが食べたせいで、樂園を追われる」などとする破天荒な女性蔑視の神話に比べると、つまり、非常にましだったわけだ。

荒木敏夫氏は「古代の政治権力と女性」という論文の中で「六世紀末に女性の王が誕生すると、以後、八世紀末までに八例の女帝が断続的に誕生している。（略）これは、中国・朝鮮などの東アジアの古代王権が『牝鷄之晨』（めんどりが時を告げる）女性が主となって万事を取り仕切ること」という警句が示すように、女性が『中心』となることを嫌うイデオロギーが強固となっている世界と比べると、大きな相違である。日本の古代は、六世紀末からの約二百年で一七例の天皇即位例の中で八例もの女帝を生み出しており、この点で明瞭に

相違する。このことは、その数の多さだけでなく、大王・天皇統治二百年の歴史の中で、そのおおよそ五〇%にあたる九二年間が女帝の統治していることも留意すれば、きわめて特記すべき事実である。」と、述べているが、長いタイムスパンにおいて、日本は「男尊女卑」が特筆に価するほどゆるやかであったということは記憶されるべきであるし、そのことの現代的意味について考える必要があるだろう。

「売春婦」という名称ではなく「遊女」という名称にもそれは、端的に表れている。佐伯順子著『遊女の文化史』では、「遊ぶ」ことの宗教性、文化性から遊女の存在を巫女とも芸能者とも規定する。

遊女は決して罪人ではなかったのである。

今西氏は、十八世紀後半、オランダ人の日本紀行を紹介する。

「一層意外なことは、この遊女たちが自分が売られて行き、稚い年齢から育て上げられた家に数年間居た後に、なんらの不名誉の謗なく社会に還って行けるし、なお時によれば正しく且つよい条件で

結婚が出来ることである。」また、ポンペなる人物は「日本に於ける遊女制度は、政府がこれを保護し、社会がこれを避けず、親は、正當にその子を遊女屋に売る事ができるので、かく慨嘆すべき有様になつている」こと。「二十五歳に達すると、これらの娘たちは、自由の身となり、束縛は解け、そして、私の云う通り、確に不思議に思われるであろうが、彼女たちは、名誉ある婦人として、社会に還るのである。」と見聞記に記している。

農村などで食い詰めた親元から遊女へと身請けさせられる少女たちは、概して孝行娘とみなされ、罪とも穢れとも見なされはしない。しかし、私娼たる「隠売女は、また革なめし人、即ちえたの下位に在る。」とも述べ、公的管理外の性について、この時代すでに厳しい差別があつたことを伝える。

時代は江戸から明治国家の成立となり、明治五年（一八七二年）に芸娼妓「解放令」が出される中で梅毒の蔓延もあり、女性の身体への「国家管理」化が進められる。興味深いことは、梅毒検査に関して、当時の遊女たちが他人に「陰門」を見せることを、いかに嫌がっ

ていたかがわかるくだりである。「『陰門開観』の件が、一般に知れ渡れば、客席にでられないばかりか、神仏の参拜もできないというのである。そればかりか、湯屋、髪結所に行けないどころか、親姉弟の恥にもなり、年期があけても嫁にも行けないというのである」。このことは、当時の遊女たちが自らの仕事としての性的営みについては肯定しつつも、自分の身体が西欧的視線で「対象化」されることをいかに嫌ったかということを表していると思われる。

国家的管理も困り込みも、実は一方では、女性の性のエネルギーが横溢する現実を肯定した上で対処するという態度に思えるが、時代がさらに下り、北海道開拓、朝鮮植民地化政策における女性の身体への視線は、一変して目的をもった収奪、現金化される搾取の対象となる。

札幌では明治四年、土地区画のなかで遊郭予定地を設定し、薄野と名付けた。開拓使松本十郎判官は「女郎屋もまた開拓の一端たるにあらざるや」と言い、芸娼妓は「犬馬視」された。そして貸座敷、芸妓、娼妓の三業から徴収した地

方税は、全体の七〇%の比率を占め、地方の公益（土木、衛生、困窮者救済）に使われたという。「北海道の開拓は娼妓たちからの『血の犠牲』なしにはありえなかった。」と今西氏も述べ、植民地朝鮮の「居留民団」の財源として、遊郭は重要な役割を果たし、台湾、樺太、「満州」など、各植民地にも言えるとする。まさに女性たちを眼差すその視線の変化と、性の植民地化政策こそが、日本の軍隊が「従軍慰安婦」を公然と従え、侵略戦争へと突き進んでいくという政策を当然視させた。

中世の遊女の歴史から、島原・吉原を経て、植民地下の娼館へ時間と場所を異動させながら、資料をつぶさに駆使して実態を浮かび上げる力量は、周縁民衆史研究の第一人者と言われる著者の本領であろう。しかし、「『帝国意識』と結びついた『性差別』の連鎖は、いったいいつになったら断ち切れるのであろうか。」という著者の問題意識は、本書からでは解明されない。それは、今西氏が「遊女の社会史」と言いながら、日本の売春あるいは、人身売買の歴史を念頭に置いた場合、それを

根絶すべき「悪」と見なす西洋近代の視線をあらかじめ前提にして
いるからではないだろうか。

関口すみ子著『御一新とジエンドー』は、日本における「女権」が明治維新からの近代化によっていかに剥奪されてきたのかを、詳細な資料を駆使しながら指し示す労作である。最後の將軍徳川慶喜が、十三代將軍の世継ぎになることを嫌った理由として、「老女は実に恐るべき者にて實際老中以上の権力あり」ということをあげているのはなぜか、という問いから従来の「女性が常に抑圧されていた」という歴史観を覆す様々な史実を明らかにしていく。実際、彼女の論証から知れるのは、江戸までの女権に辟易した維新の志士、また中心人物である福沢諭吉や井上馨がいかに近代西洋と古代中国の儒教を最大限持ち出し折衷することによって、従来の女性たちの力を削いで行ったのかということであり、「遊女」の存在もまたその脈絡に位置づけられる。錦絵や浮世草子に描かれていた花魁のトップスターたる地位は、皇后美子のスナップ写真と作られるイメージによって取って代わられ、「娼妓解

放令」では牛・馬と同列に扱われ、さらに福沢ら明治の知識人・為政者によって繰り返しの外にある人非人であるというメッセージと共に、必要悪としつつ、女性の身体を収奪する体制を確立していくのである。それゆえ、歴史は性差別の連鎖などという単純な物言いで見極めることができず、女性を貶める政策の政治的な意図を見抜くと同時に、特に明治維新以降、歴史的に女性への抑圧がどのように利用されてきたのかを見極めることが重要だと思われる。

女性の力への封殺、男性に従属する地位の確定について、私は、明治知識人たちによる雑誌や書物によるイデオロギー的キャンペーンと同時に、戸籍制度と民法の成立が人々の意識に与えた影響の計り知れなさを思う。

「戸主」という存在を一家の主とし、その他の成員を従属させることが問題というだけにとどまらず、「扶養」という概念を打ち出し、子どものみならず妻をも「被扶養者」たる身分に陥れることで、社会的責任を剥奪しもっぱら家の内部に責任をもつことを推奨し、積極的にその立場を税法その他社

会保障によって優遇するという制度設計は、現在にも生かされている。百年以上も前の民法が、子の嫡出推定において現在の齟齬をきたし、「無戸籍」の状態に陥ることが問題であるということは、この間新聞報道でも連日取り上げられている（問題は、戸籍が無いというのではなく、戸籍への登録がなされないことでの権利の剥奪なのであるが）。家単位の登録であり家を出たあともその親族を果てしなく追うことができる「戸籍制度」が近代国家と矛盾するという危機感

は、現在よりもむしろ明治の学者たちであり、扶養概念をめぐる論争と共に大激論が交わされている。しかし現在、戸籍があることが当たり前となり、むしろ戸籍への登録自体を「ありがたい」と思わせられる状況になったときに、個人主義を廃した「家意識」の受容は、この時代にこそ貫徹してしまっているのかもしれない。

一九七五年の国際婦人年をきっかけに、女性差別の元凶が「性別役割分業」にあるという説が一般化し、以来定説になっていくが、その当時も「リブ」の女性たちはそれに対して疑義を挟んだ。とい

うのは、女性たちは常にすでに働いているという現実があったからだ。内職、パートなど諸外国において安いの「外国人労働者」が担わされていた最も収奪の割合が高い分野を女性たちが担い、しかもその事実が「主婦」労働として隠蔽されたのであり、「女性差別」の原因を単純に「性別役割分業」に特化したフェミニズムの言説もまた、女性が現実には家事労働以外の社会的労働力として機能しているという現実を覆い隠すことに一役買うという逆説をうむ場合もある。女性を、政治・経済・社会活動から排除しようとする意図は、権力によってくりかえし表明されてきたが、そのたびに、この国に生きてきた女性たちは、働き、学び、意見を言うことで、そのもくろみを現実的に覆ってきた。国連のエンパワメント指数が最下位に近くても、日本では女性が家庭内で財布の紐を一手に握り財産管理

を行っていることは、西欧の男性たちを驚かせるという。一例ではあるが、「女権」はそのような形で、現在にも残っているが、明治以降の構造的な女性支配や、人々が持っていた女性観へのイデオロ

ギー操作（洗脳とも言う）に対しては、未だに有効な反撃ができていないとは言い難いのである。それゆえ、今西氏が描き出す遊女の歴史についても、私たちは彼女たちに単に同情的な「善意」の視線を投げかけることが、実は、遊女が歴史的社会的に位置づけられていたところの有為性を剥奪することにならないか、十分に注視する必要があるのである。

「人身売買」に関して、世界的にも法的に「ゆるい」日本の状況は性に寛容であった文化の名残りが、資本主義経済のもと女性の身体の収奪でしかない現状を直視させず、それを「許す」傾向を産んでいる。そのことは看過することのできない問題であるが、性をめぐる日本の状況を歴史的に吟味した上で批判することがなければ、上滑りな人権擁護をしか言うことができず、有効な批判とならないまま、現状を追認してしまうことになるだろう。性的営みの力への畏怖や尊敬と同時に、女性性あるいは、「産む」という行為に関する歴史的な意義も奪回しながら、女性の尊厳に対する蹂躪行為としての人身売買を批判していくべき

であるし、そのためには、明治以降つくられてきた「日本の女性史」を、ありのままに、生き生きと暮らしてきた女性たちの歴史として私たちの手もとに取り返すと同時に、明治以降の女性抑圧に加担する制度設計への批判が、今後もさらに望まれるのである。

参考文献

- 今西一 『遊女の社会史 島原・吉原の歴史から植民地「公娼」制まで』（有志舎、二〇〇七年）
- 荒木敏夫 『古代の政治権力と女性』（棚沢直子・中嶋公子編『フランスから見る日本ジェンダー史 権力と女性表象の日仏比較』、新曜社、二〇〇七年）
- 佐伯順子 『遊女の文化史 ハレの女たち』（中央公論新社、一九八七年、中公新書）
- 関口すみ子 『御一新とジェンダー 荻生徂徠から教育勅語まで』（東京大学出版会、二〇〇五年）
- 脇田晴子・林玲子・永原和子編 『日本女性史』（吉川弘文館、一九八七年）

2008年度部落史連続講座 PART2

- 第1回 11月 7日（金） 京都市の同和行政をめぐって
「『ニコヨン』の都市社会史
失業対策事業・被差別部落・女性」
杉本 弘幸さん（京都市市政史編纂助手）
- 第2回 11月21日（金） 京都市の同和行政をめぐって
「オール・ロマンス事件の虚構と真実」
前川 修さん（地域福祉センター希望の家職員）
- 第3回 12月 5日（金） 「京都の在日朝鮮人」
金森 襄作さん
（京都部落問題研究資料センター運営委員）

時間：午後6時30分～8時30分

場所：京都府部落解放センター2階 実習室

参加費：無料

～ 参加希望の方は京都部落問題研究資料センターまで電話・FAX・電子メールでご連絡ください ～

『部落解放』項目別総目次 501号～600号
 部落解放研究 181号（部落解放・人権研究所刊，2008.4）：1,000円
 特集 人権行政を考える視点
 いま人権行政の再構築とは何か 稲積謙次郎／自治体基本条例を考える視点と人権 幾つかの事例を通して 中川幾郎／人権行政について考える 大阪市人権施策推進審議会答申等を手がかりに 友永健三／人権意識調査の動向と今後のあり方 奥田均
 教育的に不利な立場にある子どもの生活リズム 田川市立金川小学校の実践から 高田一宏
 資料紹介 松本治一郎記念会館旧蔵資料 松本治一郎関係書簡・資料から 7 本多和明
 書評 佐藤郡衛著『国際化と教育 異文化間教育学の視点から 改訂新版』＜放送大学教材＞ 平沢安政／宮武利正著『「破戒」百年物語』 守安敏司／児美川孝一郎著『権利としてのキャリア教育』＜若者の希望と社会2＞ 板山勝樹／中川幾郎・松本茂章編著『指定管理者は今どうなっているのか』＜文化とまちづくり叢書＞ 平尾和
 部落解放研究 14（広島部落解放研究所刊，2008.3）：1,000円
 1930年代山本政夫の思想 『融和事業研究』論文を中心として 山本真一
 宗教と社会 神戸修
 結婚差別の構造 「親戚の忌避」と「世間の忌避」 齋藤直子
 朝鮮人の被差別部落への移住過程 広島市の地区を事例として 伊藤泰郎
 日本国憲法「改正」と戦争への道 坪田典子
 悶死と散華の間 戦没学徒の意味世界 青木秀男
 部落解放研究くまもと 55号（熊本県部落解放研究会刊，2008.3）
 特集 水俣学からの問いかけ
 水俣病患者とともに50年 原田正純／胎児性患者の娘とともに 上村好男／水俣病と差別・・部落差別とかさねつつ 羽江忠彦
 史料でよむ部落史 山本尚友
 部落解放新聞 205号（部落解放同盟全国連合会刊，2008.4）：200円
 全国大会の議案（草案）
 部落解放ひろしま 83号（部落解放同盟広島県連合会刊，2008.7）：1,000円
 特集 世界人権宣言60周年 国連人権諸条約と日本の人権状況
 解放運動の人間像 24 宗教者が取り組むべき現実的課題 小森龍邦
 部落問題研究 184（部落問題研究所刊，2008.4）：1,111円
 特集 日本近世・近代史の中の「行き倒れ」と「マビキ」
 日本社会における＜棄民＞の歴史的研究

近世城下町の行倒れと「片付」 和歌山の場合 藤本清二郎／「行き倒れ」の近代史 明治政府・福島県の「行き倒れ」対応法制と日露戦後の福島県における「行き倒れ」事例の検討 竹永三男／近代三重県域におけるマビキ慣行 茂木陽一
 座談会 新自由主義と歴史研究の課題
 新自由主義と歴史研究の課題 趣旨説明を兼ねて 鈴木良／世界のなかの日本現代史 佐々木隆爾／新しい戦後社会運動史のために 広川禎秀／現代における地域史研究の課題について 日本近代都市社会史の立場から 佐賀朝
 本願寺史料研究所報 34号（本願寺史料研究所刊，2008.3）
 宝来の由緒書について 左右田昌幸
 山本正男＝政夫研究会会報 5（山本正男＝政夫研究会刊，2007.4）
 山本政夫の部落問題・同和教育認識 国策樹立運動期における 渡辺俊雄
 1920年代の融和運動と山本正男をめぐる近年の研究状況についての雑感 本郷浩二
 酒のネタとしての山本先生 秋定嘉和
 山本正男＝政夫研究会会報 6（山本正男＝政夫研究会刊，2007.6）
 部落経済更生運動期の山本正男 昭和恐慌後の農村経済更生・国民更生運動との関わりで 吉村智博
 山本正男＝政夫研究会会報 7（山本正男＝政夫研究会刊，2007.8）
 初期広島県共鳴会における官民合同運動のあり方 「山本五次資料」を読む 手島一雄
 山本正男＝政夫研究会会報 8（山本正男＝政夫研究会刊，2007.10）
 同対審答申と山本政夫 金井宏司
 山本正男著作目録・補遺
 山本正男＝政夫研究会会報 9（山本正男＝政夫研究会刊，2007.12）
 共鳴会をめぐる人々と山本正男 割石忠典
 リベラシオン 129（福岡県人権研究所刊，2008.3）：1,000円
 特集 隣保館活動への期待
 提言 部落解放運動への提言を終えて～一連の不祥事
 の分析と運動再生への道 稲積謙次郎
 シンポジウム 「今、筑前竹槍一揆に学ぶ」 上杉聡，石瀧豊美，西原茂徳
 図書の紹介
 『結婚差別 データで読む現実と課題』（奥田均著） 竹森健二郎／『水平記 松本治一郎と部落解放運動の100年』（高山文彦著） 竹森健二郎
 映画紹介 「ガイサンシーとその姉妹たち」（班忠義監督） 木下直子

村越末男先生を偲んで 寺木伸明
 北芝地域における地域の青年の再学習等ニーズ調査の取り組み 内田龍史
 婚外子差別を撤廃して、憲法に定められた人権尊重規定を実現しよう 土橋博子
 走りながら考える 「拒否権」は時に絶大な権力となるが... 橋下大阪府知事へのメッセージ 北口未広
 「部落解放運動への提言」を読む 住田一郎
 書評 木戸衛一, 長野八久編著『平和の探求 暴力のない世界をめざして』 佐々木貴弘
 ひょうご部落解放 128 (ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2008.3) : 700円
 特集 第13回全国部落史研究交流会報告
 兵庫における部落史関係史料収集50年の足跡 安達五男 / 近世部落寺院本末関係の研究状況と課題提起 和田幸司 / 近世後期の本願寺派部落寺院の動向について 藤原豊 / 戦後部落解放運動史研究の現状と課題 渡辺俊雄 / 戦後福岡における部落解放委員会の活動 竹森健二郎
 荒波に屈することなく コリア国際学園のチャレンジ 高吉美
 本の紹介 『「破戒」百年物語』(宮武利正著) / 『靖国戦後秘史 A級戦犯を合祀した男』(毎日新聞「靖国」取材班著)
 佛教大学総合研究所紀要 15号(佛教大学総合研究所刊, 2008.3)
 出産をめぐる習俗とジェンダー 産屋・助産者・出産環境 八木透
 部落解放 596号(解放出版社刊, 2008.4) : 630円
 特集 高齢者虐待
 本の紹介 岬の波音 中上紀
 いつか、“蜜の丘”の上で インド・カースト社会の現実 安田吉伸
 エンパワメントの道のり カラカサンによる移住女性のDVサバイバー支援 石川美絵子
 朝鮮植民地支配被害者の遺骨全体を視野に 動きはじめた返還問題 川瀬俊治
 部落文化を訪ねて 3 部落の伝統芸能=門付芸は「神事」 川元祥一
 部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 5 部落差別にどのようにアプローチするか 藤沢靖介
 部落解放 597号(解放出版社刊, 2008.5) : 630円
 特集 人権・同和行政の今後
 本の紹介
 『新・買ってはいけない 5』(垣田達哉ほか著) / 『日本はどうなる2008』(『週刊 金曜日』編) / 『岩国は負けない 米軍再編と地方自治』(『週刊 金曜日』編) / 『ワーキングプア 日本を蝕む病』(NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班編) / 『在日』(姜尚中著) / 『死刑 人は人を殺せる。でも人は、人を救いたいとも思う』(森達也著)

被差別民衆の頭「長吏」の生活と仕事 『悲田院長吏文書』の発刊にあたって 中尾健次
 住宅セーフティネット法と人権のまちづくり 寺川政司
 社会的排除 / 包摂論と現代の部落問題 編著『社会的排除 / 包摂と社会政策』の刊行に寄せて 福原宏幸
 部落文化を訪ねて 4 相互了解の社会文化システム 川元祥一
 部落解放 598号(解放出版社刊, 2008.5) : 1,050円
 人権キーワード2008
 部落解放 599号(解放出版社刊, 2008.6) : 630円
 特集 「痛み」への想像力 雇用問題と格差社会
 ピリカピリカ 1 わたしがわたしであること 多原香里
 本の紹介 『ひげがあろうがなかるうが』(今江祥智著) 谷口研二
 学校人権教育の推進に大きな意味 「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」 平沢安政
 日韓の識字運動が手を携えた歩みを開始 「2008 韓日・文解 夜間中学 学習者交流集会宣言」 川瀬俊治
 インタビュー 沖縄の近現代史をとらえ返す 100メートルレリーフを完成させて 金城実
 増加する差別事例と当面の課題 インターネットにおける差別問題 田畑重志
 セミナー 日本に暮らす外国人 4 最貧国から来た外国人の“国際貢献” 山村淳平
 部落文化を訪ねて 5 「清めの塩」と「祝詞」から 部落文化の原点を考える 川元祥一
 部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 6 長吏・かわたの仕事と役割をめぐって 藤沢靖介
 部落解放 600号(解放出版社刊, 2008.7) : 630円
 特集 日本のマイノリティの人権
 厳しくなる生活実態と続く差別事件 被差別部落の人権の現状と課題 友永健三 / 無年金の解決と地方参政権の実現を 在日コリアンの人権の現状と課題 田中宏 / 監視・管理法制の強化とそのもとでの社会統合化 在日外国人の人権の現状と課題 丹羽雅雄 / 権利条約をふまえ障害者差別禁止法の制定へ 障害者の人権の現状と課題 金政玉 / 女性と人権 現代社会における女性差別の現状を中心に 江原由美子 / 日本の人権状況と「日本における人権の法制度に関する提言」 山崎公士
 本の紹介 挑発への応答のために 野村浩也編『植民者へポストコロニアリズムという挑発』 青木秀男
 大きな器量で時代を駆け抜けた 村越末男先生を追悼する 加藤昌彦
 コミュニティづくりを軸に差別の解消へ 大阪府同和問題解決推進審議会の提言について 平沢安政
 「今後の人権行政のあり方について」 大阪市の答申をどう読み、活用すべきか 柏木宏
 部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 7 斃牛馬処理の意味と社会的仕組み 旦那場・勸進場 藤沢靖介

2008.6.15) : 150円

『改進黨の歴史其の十九』解放新聞改進黨(2008年2月20日付)への反論 4 川部昇

であり 552 (全国同和教育研究協議会編, 2008.3) : 150円

人権文化を拓く 130 出会いから学んだ 神野ちどり

であり 553 (全国同和教育研究協議会編, 2008.4) : 150円

人権文化を拓く 131 企業活動と人権 <企業活動の色々な場面に「人権の視点」がある> 小林繁

であり 554 (全国同和教育研究協議会編, 2008.5) : 150円

人権のまちをゆく 41 人権のまちづくりは住民の手で ~ 赤堀人権のまちづくり推進委員会のあゆみ ~ 辻山忍

人権文化を拓く 132 障害者雇用支援を通じて、気づかされたこと 栗原久

同和教育論究 28 (同和教育振興会刊, 2008.3) : 1,500円

門信徒会運動に関する一考察 ~ 寺檀制度との関係性の側面から ~ 井上慶永

高津正道の宗教観と僧籍剥奪 小武正教

同朋運動から見た改正教育基本法 小笠原正仁

部落起源説をなぜ学ぶのか 武田達城

『三浦参玄洞論説集』刊行によせて (下) 藤本信隆

近世真宗差別問題史料 4 「穢村永代経願一件」 左右田昌幸

どの子も伸びる 389 (部落問題研究所刊, 2008.4) : 735円

「人権教育」批判 全同教「『豊かな人権教育の創造』実践交流会」報告から見えてくるもの 谷口幸男

どの子も伸びる 390 (部落問題研究所刊, 2008.5) : 735円

「人権教育」批判 「人権教育研究指定校」の「社会科(同和問題学習)」1 谷口幸男

どの子も伸びる 391 (部落問題研究所刊, 2008.6) : 735円

「人権教育」批判 「人権教育研究指定校」の「社会科(同和問題学習)」2 谷口幸男

どの子も伸びる 392 (部落問題研究所刊, 2008.7) : 735円

「人権教育」批判 『人権教育の指導方法の在り方について「第三次とりまとめ」(案)』について その1 谷口幸男

なら解放新聞 754号(奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2008.3)

部落解放運動をどう進めていくのか 第1回検討会の提案 日本史研究 547号(日本史研究会刊, 2008.3)

2007年度日本史研究会大会特集号

近現代史部会 共同研究報告

「戦後」沖縄における復帰運動の出発 教員層からみる

戦後/占領下の社会と運動 戸邊秀明 / 1950年代「京都」における失業対策事業・女性失対労働者・被差別部落戦後都市社会政策とマイノリティをめぐって 杉本弘幸

ネットワーク医療と人権ニュースレター 17号(ネットワーク医療と人権刊, 2008.3)

シンポジウム「患者とは何者か? 患者・医療者間の『せつなさ』と『幸福な関係』」報告特別号

ねっとわーく京都 231 (ねっとわーく京都21刊, 2008.4) : 500円

特集 どうみる!? 951票差の市長選

<同和>は争点になっていたのか。寺園敦史

同和問題レポート 強面幹部を重用せざるをえない理由 錦林地区職務強要事件の背景 寺園敦史

ウォッチャーレポート 47 同和奨学金返済肩代わり 初めての支出差し止め勧告 村井豊明

ねっとわーく京都 233 (ねっとわーく京都21刊, 2008.6) : 500円

市政レポート 犯罪・不祥事摘発。京都市服務監察の光と影 真崎幸一

同和問題レポート 理由なき<同和>特別対策は続く。寺園敦史

ウォッチャーレポート 京都市が突如申し立ててきた弁論の中身 市有地無償貸付住民訴訟 鈴木亮

ねっとわーく京都 234 (ねっとわーく京都21刊, 2008.7) : 500円

滞納総額17億円、公金は闇に消えるのか!? 京都府の怠慢で巨額の焦げつきを生んだ同和高度化資金 寺園敦史

ヒューマンライツ 241 (部落解放・人権研究所刊, 2008.4) : 525円

走りながら考える 84 部落差別撤廃へ行政・運動体の役割を提言 大阪府同和問題解決推進審議会の提言 2 北口末広

書評 福田弘著『なぜ今、人権教育が必要なのか?』 友永健三

シリーズ いっしょに動こう、語りあおう 「不利益分配」社会のなかの拠点施設 住友剛

ヒューマンライツ 242 (部落解放・人権研究所刊, 2008.5) : 525円

いま、部落解放運動の課題を考える 「部落解放運動への提言 一連の不祥事の分析と部落解放運動の再生にむけて」 上田正昭

走りながら考える 85 財政再建が財政を悪化させないために 経済効率最優先が長期的不経済を生む 北口末広 「格差社会の高校生 ~ 定時制で生徒急増、いま何が」

制作現場から考える 藤田美和子

一語に込められた重み オーストラリア先住民への公式謝罪が語るもの 友永雄吾

ヒューマンライツ 243 (部落解放・人権研究所刊, 2008.6) : 525円

人権教育としての法教育 岩間一雄
「同化」と「異化」の共存という課題～養護教諭と発達障害～ 3 特別扱いと差別観 杉村直美
季刊人権問題 351 (兵庫人権問題研究所刊, 2008.4) : 700円
人権擁護法案 「解同」の政治取引があらさまに 「解同」は「糾弾闘争」合法化で利権擁護を狙う 新井直樹
信州農村開発史研究所報 100号 (信州農村開発史研究所刊, 2007.6)
地元での『破戒』評価と裏話 朝倉米重
信州農村開発史研究所報 101号 (信州農村開発史研究所刊, 2007.9)
御差合名 瀧澤英夫
人権と部落問題 772 (部落問題研究所刊, 2008.4) : 630円
特集 子どもと人権
文芸の散歩道 武田繁太郎の小説『夢国峠』に対する北原泰作氏からの「部落脱出批判」論 桑原律
「解同」裁判40年 到達点と課題 4 矢田事件の勝利と教訓 民事判決の格調の高さ、刑事判決の水準の低さ 石川元也
人権と部落問題 773 (部落問題研究所刊, 2008.5) : 630円
特集 日米安保と国民生活
日教組の改訂「人権教育指針」批判 柏木功
「解同」裁判40年 到達点と課題 5 吹田市長への攻撃、三暴力事件・吹田二中事件 石川元也
人権と部落問題 774 (部落問題研究所刊, 2008.6) : 630円
特集 働く女性の権利
文芸の散歩道 解同路線に立つ『破戒』論の一典型 川端俊英
「解同」裁判40年 到達点と課題 6 八鹿・朝来事件(上) 無法・残虐な集団暴行の実態 民主主義に背を向けた刑事事件判決 石川元也
人権問題研究 30 (大阪市立大学人権問題研究会刊, 2008.3) : 1,500円
地域社会の生涯学習の基礎としての『識字』のあり方を考える～大阪市の識字学級をめぐる動向の推移から 田中聡
アイデンティティとネットワーク ある沖縄人女性の生活史と文化実践から 岸政彦
社会構築主義の視点から考察する在日コリアンの教育とアイデンティティ 朴育美
Buraku identity as a social category Pauline Gnam
地方都市のセクシュアル・マイノリティの権利が条例化するための条件～宮崎県都城市男女共同参画社会づくり条例の制定・再制定の動きを事例として～ 栄留里美
「日本人」とは誰か 教室内の「他者」を捉えるまなざし 森川与志夫

カンボジアにおける仏教に根ざした人権教育の研究 法社会学・法人類学からのアプローチ 木村光豪
ハラメント問題に大学が本格的に取り組む時、必要な視点、立ちちはだかるもの アカ・ハラ対策の段階を迎えて 北仲千里
振興会通信 87号 (同和教育振興会刊, 2008.3)
同朋運動史の窓 3 左右田昌幸
信州農村開発史研究所報 102・103号 (信州農村開発史研究所刊, 2008.3)
水平運動を支援した警察署長・両角平左衛門 川向秀武
第41回全研へ協力して 事務局
水平社博物館研究紀要 10号 (水平社博物館刊, 2008.3) : 1,000円
福井県近代部落史～嶺南地方を中心として～ 池尾正頼
海外で報じられた部落問題と水平社運動～英訳された「水平社宣言」を中心に～ 駒井忠之
月刊スティグマ 144号 (千葉県人権啓発センター刊, 2008.5) : 500円
特集 部落問題は、今
千葉県の部落問題一問一答「今更ながら、もう一度入門書を」/ 部落史・部落問題関係近代年表 / 佐倉市人権問題意識調査 [結果概要版]
正論 434号 (産経新聞社刊, 2008.5) : 680円
だから人権擁護法案は問題なのだ 情報公開でわかった「吊るし上げ」交渉の一部始終 近藤将勝
西館好子のにつぼん子守唄紀行 16 命の詩・竹田の子守唄
地域と人権 1064号 (全国地域人権運動総連合刊, 2008.5.15) : 150円
全国人権連第3回定期大会運動方針案
NHK「その時歴史が動いた」(4/16放送) 抗議・申し入れ書全文
月刊地域と人権 291 (全国地域人権運動総連合刊, 2008.4) : 350円
「地域社会における権利憲章」公開討論会 上
資料 08年2月29日の自民党・人権問題調査会の議論(概要)
地域と人権京都 524号 (京都地域人権運動連合会刊, 2008.5.1) : 150円
解放新聞改進黨 『改進黨の歴史其の19』への反論 1 川部昇
地域と人権京都 525号 (京都地域人権運動総連合会刊, 2008.5) : 150円
『改進黨の歴史其の十九』解放新聞改進黨 (2008年2月20日付) への反論 2 川部昇
地域と人権京都 526号 (京都地域人権運動連合会刊, 2008.6.1) : 150円
『改進黨の歴史其の十九』解放新聞改進黨 (2008年2月20日付) への反論 3 川部昇
地域と人権京都 527号 (京都地域人権運動連合会刊,

こべる 182 (こべる刊行会刊, 2008.5) : 300円

「部落解放運動への提言」を読む 3 上 「提言」は実状を踏まえているか 山下力+藤田敬一

差別・被差別 混沌の泉 1 井戸を掘る 山口公博

いのちを生きる 10 泣いたらあかん! 長谷川洋子

光る風を見た 写真と文 小林茂

こべる 183 (こべる刊行会刊, 2008.6) : 300円

「部落解放運動への提言」を読む 3 下 古い衣装を脱ぎ捨てて、新しい舞台へ 山下力+藤田敬一

自分史のこころみ 2 京都・学習施設とわたし 「主体性」と「責任」のはざままで 中西仁

いのちを生きる 11 桜再会 長谷川洋子

光る風を見た 写真と文 小林茂

こべる 184 (こべる刊行会刊, 2008.7) : 300円

自分史のこころみ 3 当事者への想像力 私の運動の原点を振り返る 藤崎昇

尼崎だより 28 老人ホームへの手紙から 中村大蔵

四日市から 16 灰谷健次郎先生を偲ぶ 坂倉加代子

いのちを生きる 12 花冠 長谷川洋子

光る風を見た 写真と文 小林茂

佐賀部落解放研究所紀要 25 (佐賀部落解放研究所刊, 2008.3)

特集 第26回九州地区部落解放史研究集会

浄土真宗と部落問題 奈良県の事例から 奥本武裕 / 独立系水平社・自治正義団と堺利彦農民労働学校 1920

~30年代福岡県京都郡地方の水平運動 小正路淑泰 / 近世の宗教政策と浄土真宗 森知見

雑学 34号 (下之庄歴史研究会刊, 2008.5) : 800円

人権をめぐる判例と差別・平等論 常識論を超えて 上野茂

沖縄戦の実相を歪めるな! 歴史的記憶を心に刻むために 金井英樹

「忘れ去られた」福本正夫 吉田智弥

第34回奈良県人権・部落解放研究集会から再録し学ぶ 土岸喬慶

異能者論付記 上野茂

中上健次私論ノート19 高桑健二

闘痛日記<骨折からの復帰> 石橋武

狭山差別裁判 402号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2007.6) : 300円

特集 世界に問われる日本の司法

狭山事件と野間宏 4 庭山英雄

狭山差別事件 403号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2007.7) : 300円

特集 いまこそ可視化を実現しよう!

狭山事件と野間宏 5 庭山英雄

月刊滋賀の部落 416 (滋賀県同和問題研究所刊, 2008.3) : 600円

滋賀の部落 総目次 1976年4月 (創刊号) ~ 2008年3月 (417号)

滋賀県同和問題研究所刊行・文献目録

月刊滋賀の部落 417 (滋賀県同和問題研究所刊, 2008.3) : 400円

『滋賀の部落』の終刊にあたって 山田稔

滋賀県同和問題研究所のあゆみ 2

座談会 部落問題の解決のために研究所が果たしてきた役割

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 最終回 鈴木俊亮

連載を終えて 鈴木俊亮

『滋賀の部落』終刊に寄せて 佐橋忠男

人権教育研究 16号 (花園大学人権教育研究センター刊, 2008.3)

社会運動 (SM) としての部落解放運動・社会運動組織 (SMO) としての部落解放同盟 八木晃介

新融和主義の破産 吉田栄治郎「オルタナティブな解放理論構築にむけた問題提起として」(第1回「村落共同体研究会」資料)を読む 吉田智弥

貧困が介護環境におよぼす影響 生活苦等によって起こる精神痛による介護者の崩壊 根本治子

宗教における<脱 異性愛主義>の実践 クィア神学の言説を手がかりに 堀江有里

「うみを渡るおんな」丸山顕徳

「乞子詰」の視座 島崎義孝

名張毒ぶどう酒事件死刑囚・奥西勝さんとの面会で明らかになったこと 脇中洋

研究ノートの覚書のようなもの「私的、今は昔のメモリー」(その5) 障害者市民、かく闘えり! 河野秀忠

人権と社会 3号 (岡山人権問題研究所刊, 2008.3)

ボランティアとしての成年後見 3年間の実践を振り返る 福田勉

障害乳幼児のいる家族における母親がかかえる生活課題 A市における「障害者の生活に関する調査」を通じて 井原哲人

「NPOの教育力」を生かした「子どもの権利」学習に関する実践と考察 立石麻衣子

ドイツの青少年援助法の変遷と概要 生田周二

格差と社会意識の関係に関する試論 フリーターはなぜ右傾化するのか 碓井敏正

グローバル化と国際貢献 キプリング「白人の重荷」をめぐって 岩間一雄

人権21 調査と研究 193 (岡山人権問題研究所刊, 2008.4) : 650円

特集 おかやま人権研究センター 2

私の本棚 碓井敏正・大西広編『格差社会から成熟社会へ』 岩間一雄

人権21 調査と研究 194 (岡山人権問題研究所刊, 2008.6) : 650円

- 語る・かたる・トーク 157 (横浜国際人権センター刊, 2008.3) : 500円
 わたしと部落とハンセン病 30 林力
 信州の近世部落の人びと 34 一把稲と旦那場 6 斎藤洋一
 同和問題再考 87 足、引っ張った日本共産党 田村正男
 部落差別の現実 68 部落差別の事例 4 江嶋修作
 語る・かたる・トーク 158 (横浜国際人権センター刊, 2008.4) : 500円
 わたしと部落とハンセン病 31 林力
 信州の近世部落の人びと 35 一把稲と旦那場 7 斎藤洋一
 同和問題再考 88 内部矛盾に悩んだ全解連 田村正男
 部落差別の現実 69 人権・同和教育の普遍化 江嶋修作
 語る・かたる・トーク 159 (横浜国際人権センター刊, 2008.5) : 500円
 わたしと部落とハンセン病 32 分らなかった民主主義
 「子どもの頃の天皇陛下」 林力
 信州の近世部落の人びと 36 一把稲と旦那場 8 斎藤洋一
 同和問題再考 89 全解連結成の「裏の真相」 田村正男
 部落差別の現実 70 人権・同和教育の普遍化 (続) 江嶋修作
 かわとはきもの 143 (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2008.3)
 靴の歴史散歩 88 稲川實
 正倉院と皮革 8 馬具こそ皮革の技術と利用法の最高の集積体 弾弓墨絵に市井の姿を伝える 出口公長
 皮革関連統計資料
 関西外国語大学人権教育思想研究 11号 (関西外国語大学刊, 2008.3)
 少子化と人権教育 (上) 子どもを取り巻く現状と課題 岡澤潤次
 犯罪被害者と人権～法制度と行政の対応を中心に～ 久禮義一
 日本古代の女性たち 律令国家成立以前と以後 佐古和枝
 人権問題関係図書小覧 加藤昌彦
 関西学院大学人権研究 12号 (関西学院大学人権教育研究室刊, 2008.3)
 社会学の方法論としての社会調査 領家穰
 近畿地区国公立・私立大学における人権教育 中道基夫
 関西大学人権問題研究室紀要 55号 (関西大学人権問題研究室刊, 2007.12)
 野間宏と部落問題 2 吉田永宏
 水平社創立者の精神現象論 西光万吉の精神世界 宮橋國臣
 季節よめぐれ 235号 (京都解放教育研究会刊, 2008.4)
 近代と被差別部落 秋定嘉和
 季節よめぐれ 236号 (京都解放教育研究会刊, 2008.6)
 「解放令」と水平社運動 <奈良の部落史> から 金井英樹
 教育実践研究 2 (大阪教育大学教職教育研究開発センター刊, 2008.3)
 被差別部落と小学校 京都・東三条を中心に 中西宏次
 資料 第29回人権教育全学シンポジウム
 京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要 21号 (京都女子大学宗教・文化研究所刊, 2008.3)
 1930年代における京都経済と朝鮮人労働者 高野昭雄
 グローブ 53 (世界人権問題研究センター刊, 2008.4)
 非人宿と夙集落 吉田栄治郎
 中世の坐り方とすまい 田端泰子
 「京都市外国籍市民意識・実態調査」の報告書が完成 仲尾宏
 京都における外国籍市民の現在 「京都市外国籍市民意識・実態調査」から 1 小川伸彦
 コア・エシックス 4 (立命館大学大学院先端総合学術研究科刊, 2008.3)
 社会的な救済の対象としての「犯罪被害者」 60・70年代の日本の被害者学と補償論の考察から 大谷通高
 死刑存続論における「死刑執行人」の位置についての一考察 日本の公文書に見る死刑執行現場の生成と消滅 櫻井悟史
 障害新生児の治療をめぐる「クラス分け」ガイドライン その変遷と課題 櫻井浩子
 障害当事者運動における介助者の役割 大阪青い芝の会の運動におけるグループ・ゴリラを事例として 定藤邦子
 トラブルを起こす/トラブルになる 1990年「府中青年の家同性愛者差別事件」と1991年から1997年の「府中青年の家裁判」を事例として 藤谷祐太
 「パート」問題を捉える視座としての「主婦」問題・「労働」問題 <主婦の立場から女解放を考える会>・<パート・未組織労働者連絡会>の試みから 村上潔
 差別論の現代史 社会運動との関係性から考える 山本崇記
 「多様な身体」が性同一性障害特例法に投げかけるもの 吉野鞞
 少年法改正をめぐる犯罪被害者遺族の言明 2000年の少年法改正をめぐる言説 大谷通高
 こべる 181 (こべる刊行会刊, 2008.4) : 300円
 「部落解放運動への提言」を読む 2 部落解放同盟は再生できるか 市民運動の経験から考える 次田哲治
 尼崎だより 27 通夜、葬儀が教えたもの 中村大蔵
 自分史のこころみ 1 わたしと部落問題 阪本清
 いのち 生き合う 続1 めくもり 『ブチ紳士からの手紙』のこと 杉山光洋
 いのちを生きる 9 一年ぶりの学校 長谷川洋子
 光る風を見た 写真と文 小林茂

- 河著) / 『親鸞のこころ 永遠の命を生きる』(梅原猛著) / 『谷崎潤一郎犯罪小説集』(谷崎潤一郎著)
 解放新聞 2364号(解放新聞社刊, 2008.4.7): 120円
 人権文化センター内支部事務所の使用不許可処分取消請求の棄却決定に抗議する 部落解放同盟大阪府連合会
 多様な教育を求めて 不登校から学ぶ 自責と苦しみの経験から 奥地圭子
 ぶらくを読む 32 湧水野亮輔
 解放新聞 2365号(解放新聞社刊, 2008.4.14): 80円
 解放の文学 24 植民地下の抒情を質す 金時鐘と『再訳朝鮮詩集』 音谷健郎
 今週の1冊 『沖縄を撃つ!』(花村萬月著)
 解放新聞 2366号(解放新聞社刊, 2008.4.21): 80円
 今週の1冊 『アメリカ下層教育現場』(林壮一著)
 解放新聞 2367号(解放新聞社刊, 2008.4.28): 80円
 今週の1冊 『つぶせ! 裁判員制度』(井上薫著)
 山口公博が読む今月の本
 『西南戦争』(小川原正道著) / 『再訳 朝鮮詩集』(金時鐘訳) / 『日本近代文学と思想性』(吉田永宏著)
 解放新聞 2368号(解放新聞社刊, 2008.5.5): 120円
 多様な教育を求めて 不登校から学ぶ 親が学ぶ・親が変わる 2 奥地圭子
 ぶらくを読む 33 政治と労働の近代化はヤクザに媒介されて誕生した 湧水野亮輔
 解放新聞 2369号(解放新聞社刊, 2008.5.12): 80円
 解放の文学 25 韓国4・3事件後の生き方 金石範と「地底の太陽」 音谷健郎
 村越末男さんの思い出 秋定嘉和
 解放新聞 2370号(解放新聞社刊, 2008.5.19): 80円
 今週の1冊 『金融権力』(本山美彦著)
 解放新聞 2371号(解放新聞社刊, 2008.5.26): 80円
 今週の1冊 『まんが 反資本主義入門』(エセキエル・アダモフスキ文)
 山口公博が読む今月の本
 『夢・葬送』(趙博著) / 『私が人生の旅で学んだこと』(日野原重明著) / 『ポローニヤ紀行』(井上ひさし著)
 解放新聞 2372号(解放新聞社刊, 2008.6.2): 120円
 多様な教育を求めて 不登校から学ぶ 奥地圭子
 ぶらくを読む 34 階層社会のなかの教育の課題 1 湧水野亮輔
 解放新聞 2373号(解放新聞社刊, 2008.6.9): 80円
 解放の文学 26 「戦場俳句」の半世紀の軌跡 鈴木六林男と「全句集」 音谷健郎
 今週の1冊 『木田元の最終講義 反哲学としての哲学』(木田元著)
 生きる 安田茂樹さん
 解放新聞 2374号(解放新聞社刊, 2008.6.16): 80円
 今週の1冊 『バレンボイム/サイド 音楽と社会』(A.グゼリミアン編)
 解放新聞 2375号(解放新聞社刊, 2008.6.23): 80円
- 狭山弁護団 5.23提出新証拠を読み解く 1
 今週の1冊 『悩む力』(姜尚中著)
 解放新聞改進黨 371号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2008.3)
 唄い継ぐこころ~私の中の「竹田の子守唄」~ 2 語り部 榎村君江さん 下
 改進黨地区の歴史 20 「改進黨地区同和对策事業総合計画(案)」1
 解放新聞改進黨 372号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2008.4)
 唄い継ぐこころ~私の中の「竹田の子守唄」~ 3 福田勝子さん 上
 改進黨地区の歴史 3
 解放新聞改進黨 373号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2008.5)
 傍聴記 第1回京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会
 唄い継ぐこころ~私の中の「竹田の子守唄」~ 3 福田勝子さん 中
 改進黨地区の歴史 22 同和行政縮小の波 1
 解放新聞改進黨 374号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2008.6)
 傍聴記 第2回京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会
 唄い継ぐこころ~私の中の「竹田の子守唄」~ 3 下 福田勝子さん
 解放新聞京都市版 198号(部落解放同盟京都市協議会刊, 2008.4): 100円
 全面勝訴! 免職撤回裁判地裁判決
 日本に暮らす日系人の子どもたちは今... 2
 第39回人権交流京都市研究会・分科会報告
 解放新聞京都版 784号(解放新聞社京都支局刊, 2008.4.1): 280円
 部落解放同盟京都府連合会2008年度一般運動方針 第1次案
 解放新聞京都版 785号(解放新聞社京都支局刊, 2008.4.10): 70円
 不当な懲戒免職を取り消し
 解放新聞奈良県連版 865号(解放新聞社奈良支局刊, 2008.6.10): 50円
 北山の清目 1 松田好則
 解放新聞兵庫版 701号(解放新聞社兵庫支局刊, 2008.3.20): 50円
 『就労実態調査』から考えられること 1 大谷強
 解放新聞兵庫版 702号(解放新聞社兵庫支局刊, 2008.4): 50円
 『就労実態調査』から考えられること 2 大谷強
 解放新聞三重版 268号(部落解放同盟三重県連合会刊, 2008.3)
 三重県連の今後の部落解放運動のあり方についての答申

収集逐次刊行物目次 (2008年4月～6月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

- アジア現代女性史 4 (アジア現代女性史研究会刊, 2008.2)
 特集 朝鮮戦争と女性
 明日を拓く 72 (東日本部落解放研究所刊, 2008.2) : 1,000円
 座談会 『小頭三郎右衛門家文書』の刊行をめぐって
 江戸時代の長吏村落の手習塾 リテラシー・ネットワーク・闘う「自由」 吉田勉
 <女>について語られてきたこと 3 『エミール』は服従の原理を破壊する 井桁碧
 部落史の断章 虚無僧の留場について 大熊哲雄
 大阪人権博物館紀要 10号 (大阪人権博物館刊, 2008.3)
 万歳師嘉四郎の近世 太田恭治
 戦後同和行政の検証 上 「同和対策事業特別措置法」の成立まで 小島伸豊
 北海道移住と上田静一 大藪岳史
 国民国家日本の海南島侵略犯罪史認識と伝達 紀州鉦山の真実を明らかにする会 文責 キムチョンミ
 資料紹介 海南島関係史料 文公輝
 総合展示における差別・人権と<私> 大阪人権博物館
 総合展示の成果と課題 仲間恵子
 大阪の部落史通信 42 (大阪の部落史委員会刊, 2008.3)
 第9巻収録 近世前期の死牛馬割帳について 寺木伸明
 第9巻収録の「近代」史料について 北崎豊二
 解放教育 485 (解放教育研究所編, 2008.4) : 760円
 特集 支え合い学び合う学級・学年集団づくり
 元気のもととはつながる仲間 37 社会を見抜く力と闘うものたちのネットワーク 差別を現実に深く学ぶことの意味 外川正明
 元気の出る学校! 11 多文化共生に向けて 長吉高校
 志水宏吉
 解放教育 486 (解放教育研究所編, 2008.5) : 760円
 特集 私の「とっておきの授業」と学力形成
 元気のもととはつながる仲間 38 「こばあ」の思いがそれぞれの心の中に根付いているから 外川正明
 元気の出る学校! 最終回 ともに学び、ともに育つ 松原高校 志水宏吉
 解放教育・バックナンバー 473号～484号
 解放教育 487 (解放教育研究所編, 2008.6) : 760円
 特集 人権教育のクロスオーバー 日教組教研集会から
 元気のもととはつながる仲間 39 「さらに深くふところへ」の実践を 外川正明
 解放教育 488 (解放教育研究所編, 2008.7) : 760円
 特集 総合学習サバイバル
 元気のもととはつながる仲間 40 同和教育は人権教育に、そして「道徳」に呑み込まれるのか 新学習指導要領を読む 外川正明
 解放研究しが 18号 (反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2008.5) : 1,000円
 「部落」をめぐる青年たちの姿 岸衛
 青年会活動と部落問題の現在 ふたつの青年会でのインタビューから 山本哲司
 Short novel オサ公 点描 山村勉
 旧三雲村行政文書の研究覚えがき 芝原雅敏
 解放新聞 2362号 (解放新聞社刊, 2008.3.24) : 80円
 社会的セーフティネット構想 第1次案 部落解放同盟
 「社会的セーフティネット」作業部会
 解放新聞 2363号 (解放新聞社刊, 2008.3.31) : 80円
 男女平等社会実現基本方針 (改訂版) 部落解放同盟
 男女平等社会推進本部
 山口公博が読む今月の本
 『和解のために 教科書・慰安婦・靖国・独島』 (朴裕

事務局よりお知らせ

「部落史連続講座 PART1」が無事終了しました。本号と次号で講演要旨を報告しますが、詳しい講演内容については、今年も年度末に講演録を発行する予定ですのでしばらくお待ちください。

今秋に「部落史連続講座 PART2」を開催します。6頁に案内を掲載していますので、是非ふるってご参加ください。

8月12日(火)から17日(日)まで、解放センター休館にとめない閉室します。

所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分